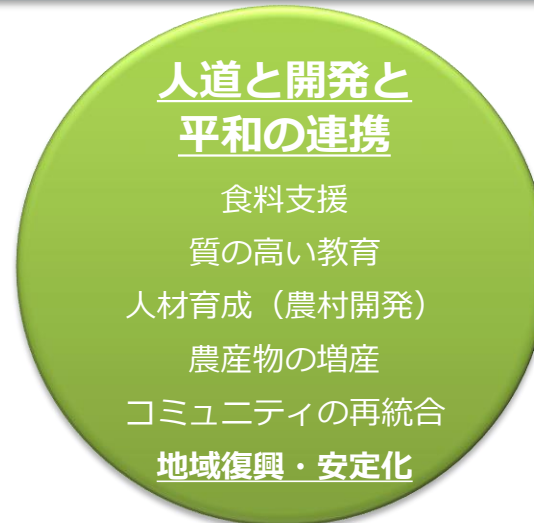


# 人道と開発と平和の連携: シエラレオネ ～日本のコメ技術で地域の安定と発展に貢献～

2019年3月  
外務省緊急・人道支援課



シエラレオネは、内戦やエボラ出血熱流行の影響により、多くの人が犠牲となり、社会・経済システムも大きな損害を受けました。その後、エボラ出血熱は収束しましたが、食料不足に陥っている人口の割合は流行前には戻っていない状況です。こうした中、シエラレオネ政府は、食料安全保障の推進を現政権の優先政策の一つとして掲げ、学校給食の普及を法的に制度化し、JICAはシエラレオネ全土において政府の取組を支援する国連世界食糧計画（WFP）との間で2018年から5年間に渡る覚書を交わし、WFPと連携して諸課題に対応しています。

## <質の高い地産地消型給食の普及>

学校給食は、子どもの食料難・栄養不良を解消すると同時に、給食の提供によって就学率、学習効果の向上を促す効果があり、教育の質の向上にも繋がります。これに加え、WFPは地域の農産物を給食に取り入れた地産地消型の学校給食システムの導入に力を入れています。さらに、JICAは、シエラレオネ人の主食であるコメの生産性向上技術と普及を支援しています。内戦の影響により多くの土地が荒廃する中、学校周辺の小規模農家が必要な給食食材の提供を行うことで、農村の復興と持続可能な地域経済の発展が可能になります。

## <地域の復興のための農村開発>

WFPは、フード・フォー・ワーク（FFW）と呼ばれる、労働の対価としての食料の配布支援を行っています。主に農道の整備や簡易な貯水池等を整備することで、地域の農業開発を促すとともに、最も必要とするインフラを地域住民が一体となって整備することで、政治的な対立を緩和する効果が期待されます。この様な取組の受益者が、JICAが支援する稲作技術を習得することでより高い開発効果が見込まれます。

写真提供: WFP, JICA